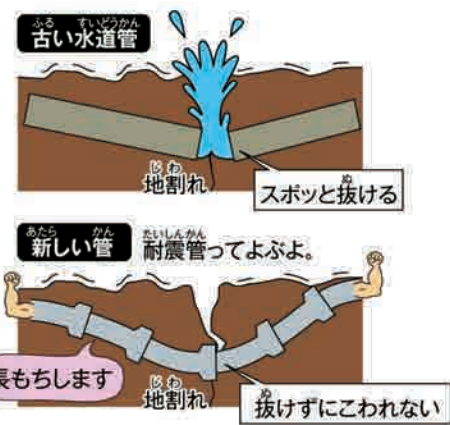




耐震化の取り組み

上下水道局では、地震などの災害に備えて、水道施設の耐震化を進めています。
このなかで、水道管の更新時には、“伸縮性”、“屈曲性”、“離脱防止機能”を備えた耐震管へと布設替えを行っています。(下図参照)



去る、平成28年4月に発生した熊本地震をはじめ、古い水道管からの漏水や破損等の被害はあったものの、耐震管の被害は、これまでの地震も含めてゼロとの報告が出されています。*1

すべての水道施設の耐震化には、莫大な事業費(約526億円)が必要となり、今後も、災害に強い安心・安全な管路整備に取り組んでいきます。

*1 日本ダクティル鉄管協会HPより

水道施設の耐震化率情報

那覇市の水道管延長は、主要な管*2が約118km、その他の管が約710km、全体で約828kmとなっています。平成27年度末の主要な管の耐震化率は23.3%、配水池の耐震化率は91.3%、ポンプ場の耐震化率は100%となっています。平成28年度末の主要な管の耐震化率は26.2%*3となる見込みです。

*2 送水管・配水本管(φ300mm以上)

*3 平成27年度全国平均は23.6%で、ほぼ同水準での耐震化率となっています。

工事に伴う断水への協力願い

